

村山 出名誉教授研究業績表

*小論・作品鑑賞・講演等は省く。

I 著書

- | | | | |
|---|-----------------|------|---------------|
| 1 | 山上憶良の研究 | 桜楓社 | 1976(昭51)年10月 |
| 2 | 憂愁と苦惱 大伴旅人・山上憶良 | 新典社 | 1983(昭58)年11月 |
| 3 | 奈良前期万葉歌人の研究 | 翰林書房 | 1995(平5)年3月 |

II 論文

- | | | | | |
|----|----------------------------------|------------------|----|--------------|
| 1 | 憶良ノート | 北海道大学『国語国文研究』 | 11 | 1958(昭33)年5月 |
| 2 | 憶良の絶唱——「土也母」の発想をめぐって—— | 『旭川工業高等専門学校研究報文』 | 1 | 1964(昭39)年3月 |
| 3 | 憶良の長歌に関する覚え書——伝統継承の側面—— | 北海道大学『国語国文研究』 | 29 | 同 10月 |
| 4 | 日本挽歌——主としてその構成について—— | 万葉学会『万葉』 | 57 | 同 10月 |
| 5 | 筑紫下向以前の憶良——初期の歌の性格と背景の検討—— | 北海道大学『国語国文研究』 | 35 | 1966(昭41)年9月 |
| 6 | 万葉集追和歌攷 | 北海道大学『古代文学会報』 | 1 | 同 11月 |
| 7 | 大伴家持の用字に関する序——万葉集巻17~20の音仮名の検討—— | 『旭川工業高等専門学校研究報文』 | 4 | 1967(昭42)年3月 |
| 8 | 詠鎮懐石歌——用字面の考察—— | 北海道大学『古代文学会報』 | 2 | 同 5月 |
| 9 | 大伴家持の用字——万葉集巻19における音仮名の覚え書(1)—— | 『旭川工業高等専門学校研究報文』 | 5 | 1968(昭43)年3月 |
| 10 | 書持と家持——語の表記の面から—— | 北海道大学『古代文学会報』 | 5 | 1969(昭44)年1月 |
| 11 | 大伴家持の用字——万葉集巻19における音仮名の覚え書(2)—— | 『旭川工業高等専門学校研究報文』 | 6 | 同 3月 |
| 12 | 最近における万葉美研究の展望 | 『国文学』(学燈社) | 同 | 7月 |
| 13 | 山上憶良——言志の歌人登場の意味—— | 日本文学協会『日本文学』 | 同 | 9月 |
| 14 | 鎮懐石歌覚書——作者と作歌意図をめぐって—— | 『旭川工業高等専門学校研究報文』 | 7 | 1970(昭45)年3月 |
| 15 | 雄略天皇と祝婚歌 | 北海道大学『古代文学会報』 | 6 | 同 7月 |
| 16 | 「恋男子名古日歌」覚書 | 『帯広大谷短期大学紀要』 | 8 | 同 12月 |
| 17 | 山上憶良 | 『国文学』(学燈社) | 同 | 12月 |

- 18 憶良三部作の性格 北海道大学『古代文学会研究論集』1 1971(昭46)年4月
- 19 「沈痾自哀文」覚書 『帯広大谷短期大学紀要』9 1972(昭47)年3月
- 20 七夕歌と憶良 北海道大学『国語国文研究』50 同 10月
- 21 「帰化系知識人の文学」の可能性 日本文学協会『日本文学』同 11月
- 22 山上憶良の生涯 『万葉集講座』6(有精堂) 同 12月
- 23 「熊凝歌」の位置 『帯広大谷短期大学紀要』10 1973(昭48)年3月
- 24 山上憶良の臣姓 『帯広大谷短期大学紀要』11 1974(昭49)年3月
- 25 「悲嘆俗道仮合即離易去難留詩」小論
北海道大学『国語国文研究』53 1975(昭50)年1月
- 26 老身重病経年辛苦及思兒等歌 『帯広大谷短期大学紀要』12 同 3月
- 27 憶良の筑紫宴歌『野田教授退官記念 日本文学新見
——研究と資料——』(笠間書院) 1976(昭51)年3月
- 28 貧窮問答歌——基礎的考察—— 『帯広大谷短期大学紀要』13 同 3月
- 29 憶良の文学——表現と思想——
『鑑賞日本古典文学3 万葉集』(角川書店) 同 10月
- 30 感情を反さしむる歌 『万葉集を学ぶ』4(有斐閣) 1978(昭53)年3月
- 31 山上の操 『万葉集を学ぶ』4(有斐閣) 同 3月
- 32 「風流侍従」覚書——経歴の検討——
『帯広大谷短期大学紀要』15 同 3月
- 33 山上憶良の七夕歌 『万葉集を学ぶ』5(有斐閣) 同 6月
- 34 風流侍従の歌——身人部王の位置——
『万葉とその伝統』(桜楓社) 1980(昭55)年6月
- 35 笠金村の従駕相聞歌 日本文学協会『日本文学』同 7月
- 36 志貴親王挽歌論——その成立と背景をめぐって——
『万葉集研究』9(塙書房) 同 11月
- 37 志貴皇子の歌——「權御歌」の解釈の視点の検討——
東京大学『国語と国文学』 1982(昭57)年11月
- 38 山部赤人の玉津島讚歌——基礎的考察——
北海道大学『国語国文研究』72 1984(昭59)年8月
- 39 憶良——「世間苦」の文学と子等——
『万葉の歌びと』(笠間書院) 同 11月
- 40 万葉集の歌体と分類配列・歌数
『研究資料日本古典文学 万葉・歌謡』(明治書院) 1985(昭60)年4月
- 41 山部赤人の恋——春思歌の成立——
北海道大学『国語国文研究』76 1986(昭61)年9月
- 42 無常と愛 「特集・万葉集の世界」『短歌』(角川書店) 同 12月
- 43 憶良最晩年の詩歌——詩序の再検討を中心に——
上代文学会『上代文学』60 1988(昭63)年4月
- 44 高橋虫麻呂——娘子の歌の位置——
『万葉集研究』17(塙書房) 1989(平元)年11月
- 45 禁断の恋——中臣宅守と狭野茅上娘子——
「特集・万葉集——その愛と死の歌——」『短歌』(角川書店) 同 11月
- 46 第三期の歌風と作家、旅人と憶良
『日本文学全史 上代』(学燈社) 1978(昭53)年10月

- 『増訂版日本文学全史 上代』(学燈社) 1990(平2)年3月
- 47 和歌『日本文学新史 古代I』国文学解釈と鑑賞別冊(至文堂) 1985(昭60)年10月
『日本文学新史<古代I>』(至文堂) 1990(平2)年5月
- 48 『万葉集』成立の謎 『別冊歴史読本』 同 7月
- 49 大伴旅人の吉野讃歌 小樽商科大学『人文研究』82 1991(平3)年8月
- 50 出自・出生 『山上憶良 人と作品』(桜楓社) 同 6月
- 51 高橋虫麻呂の「登筑波山歌」— 文選詩の「憂」との関連 —
上代文学会『上代文学』67 同 11月
- 52 文選詩の「憂」— 高橋虫麻呂の「登筑波山歌」の関連資料 —
『小樽商科大学創立八十周年記念論集・人文研究』83 1992(平4)年3月
- 53 高橋虫麻呂「登筑波山歌」— 亡憂歌の成立と背景 —
北海道大学『国語国文研究』91 同 3月
- 54 「歌詞両首」— 大伴旅人と京人の贈答 —
小樽商科大学『人文研究』84 同 8月
- 55 赤人・憶良とその時代『万葉集II 和歌文学講座』3(勉誠社) 1993(平5)年3月
- 56 大伴淡等謹状— 旅人と房前の接点 —
『上代文学の諸相 青木生子博士頌寿記念論文集』(塙書房) 同 12月
- 57 報凶問歌と日本挽歌 『筑紫万葉の世界』(雄山閣) 1994(平6)年3月
- 58 思想と歌 山上憶良 『講座古代文学』4(勉誠社) 同 8月
- 59 異郷の万葉歌人— 旅人・憶良・虫麻呂の場合 —
小樽商科大学『人文研究』88 同 8月
- 60 松浦河に遊ぶ序— 追和三首の虚構性と作者 —
『万葉の風土・文学 犬養孝博士米寿記念論集』(塙書房) 1995(平7)年6月

III 辞典・事典(分担執筆)

- 1 山上憶良事典 『万葉集必携 II』(学燈社) 1981(昭56)年12月
- 2 藤原夫人 他4項 『万葉集歌人辞典』(雄山閣) 1982(昭57)年3月
- 3 かりいほ 他13項 『万葉の歌ことば辞典』(有斐閣) 同 11月
- 4 山上憶良 他2項 『日本古典文学大辞典』6(岩波書店) 1985(昭60)年2月
- 5 笠金 村 「万葉集を読むための研究事典」『国文学』(学燈社) 同 11月
- 6 山上憶良 「作家の謎事典」『国文学』臨時増刊(学燈社) 1986(昭61)年9月

IV 書評

- 1 中西進著『山上憶良』・井村哲夫著『憶良と虫麻呂』
東京大学『国語と国文学』 1974(昭49)年5月
- 2 藤原芳男著『万葉作品考』 万葉学会『万葉』127 1987(昭62)年9月
- 3 犬養孝・清原和義著『万葉の歌人 笠金村』
『短歌』(角川書店) 1992(平4)年5月
- 4 渡瀬昌忠博士著『山上憶良 志賀白水郎歌群論』
万葉学会『万葉』155 1995(平7)年11月

V 研究発表

- | | | | |
|----|--|---------------|---------------|
| 1 | 「死人を視て作れる歌」(万葉2-220)について——人麻呂長歌の背景をさぐる—— | 日本文学協会北海道支部例会 | 1955(昭30)年11月 |
| 2 | 日本挽歌——主としてその構成について—— | 万葉学会 | 1965(昭40)年9月 |
| 3 | 古典にとって現代とは何か(シンポジウム) | | |
| | | 北海道大学国文学会 | 1979(昭54)年11月 |
| 4 | 志貴皇子の歌 | 北海道大学国文学会 | 1981(昭56)年11月 |
| 5 | 憶良最晩年の詩歌(シンポジウム「憶良を読む」) | 上代文学会 | 1987(昭62)年11月 |
| 6 | 悲嘆俗道詩の序 | 北海道大学万葉集研究会 | 同 12月 |
| 7 | 高橋虫麻呂の娘子の歌 | 北海道大学万葉集研究会 | 1988(昭63)年12月 |
| 8 | 高橋虫麻呂の「登筑波山歌」 | 北海道大学万葉集研究会 | 1989(平元)年12月 |
| 9 | 大伴旅人の吉野讃歌 | 北海道大学万葉集研究会 | 1990(平2)年12月 |
| 10 | 高橋虫麻呂の「筑波山に登る歌」——文選詩の「憂」との関連—— | | |
| | | 上代文学会 | 1991(平3)年5月 |
| 11 | 「歌詞両首」をめぐって | 北海道大学万葉集研究会 | 同 12月 |
| 12 | 大伴淡等謹状をめぐって | 北海道大学万葉集研究会 | 1992(平4)年12月 |
| 13 | 松浦河に遊ぶ序の問題点 | 北海道大学万葉集研究会 | 1993(平5)年12月 |
| 14 | 大伴旅人亡妻挽歌 | 北海道大学万葉集研究会 | 1994(平6)年12月 |
| 15 | 志賀白水郎歌群について——構造論展望—— | | |
| | | 北海道大学万葉集研究会 | 1995(平7)年12月 |